講義科目名称： 歴史学　10-14-30　　科目コード：20770

英文科目名称： History

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2年前期	2	2	選択
担当教員			
小栗　勝也			
添付ファイル			

講義概要	国際社会の仲間入りをした近代以降の日本と日本人について講義をする。西洋の文字通りの外圧の前に、国家存亡の危機的状況にあった当時の日本は、積極的に西洋文明に学び、国の近代化と独立の維持に成功した。この先人の努力の上に現代の日本も存在していることを、我々は忘れてはならない。現代に至るまでの日本の歴史の中には、確かに不幸な時代もあった。戦後の歴史教育は殊更にこの不幸の面を誇張し、全てをその色で塗りつぶすような傾向が強かった。しかし、近代日本の歴史には、当時の世界がそう認めたように光輝く側面も確かに存在し、真に学ぶに値する材料が沢山あるのが現実である。本講では単なる年表の羅列式の話ではなく、日本人の「努力」に焦点を当てながら、人間中心の話をしたい。概ね、次のような内容を予定している。
授業計画	1　近代日本の歴史的位置付け 幕末から明治の日本を学ぶ意義 【事前準備】シラバスを読み、授業全体の流れと注意事項を把握しておくこと（1.5時間） 【事後課題】授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと（1.5時間） 2　西洋の衝撃と日本人の対応 1 ペリー来航の衝撃 【事前準備】前回の授業内容を復習しておくこと（1.5時間） 【事後課題】授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと（1.5時間） 3　西洋の衝撃と日本人の対応 2 砲艦外交とぶらかし外交 【事前準備】前回の授業内容を復習しておくこと（1.5時間） 【事後課題】授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと（1.5時間） 4　西洋の衝撃と日本人の対応 3 ペリーの白旗、日本人の危機感 【事前準備】前回の授業内容を復習しておくこと（1.5時間） 【事後課題】授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと（1.5時間） 5　幕末・明治の日本人の危機感　1 生麦事件と下関事件 【事前準備】前回の授業内容を復習しておくこと（1.5時間） 【事後課題】授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと（1.5時間） 6　幕末・明治の日本人の危機感　2 長崎事件と大津事件 【事前準備】前回の授業内容を復習しておくこと（1.5時間） 【事後課題】授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと（1.5時間） 7　幕末・明治の日本人の危機感　3 大津事件に対する日本人の反応 【事前準備】前回の授業内容を復習しておくこと（1.5時間） 【事後課題】授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと（1.5時間） 8　前半のまとめと演習 １回から7回までの授業内容のまとめと演習 （授業中に復習テストを実施する。テストの詳細は１つ前の授業の最後に告知する） 9　福沢諭吉とその時代　1 「日本近代化の父」としての諭吉の業績 【事前準備】前回の授業内容を復習しておくこと（1.5時間） 【事後課題】授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと（1.5時間） 10　福沢諭吉とその時代　2 武士道精神の継承者として諭吉 【事前準備】前回の授業内容を復習しておくこと（1.5時間） 【事後課題】授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと（1.5時間）

	11　福沢諭吉とその時代　３ 『学問のすゝめ』の真意 【事前準備】前回の授業内容を復習しておくこと（1.5時間） 【事後課題】授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと（1.5時間） 12　後半のまとめと演習 9回から14回までの授業内容のまとめと演習 （授業中に復習テストを実施する。テストの詳細は１つ前の授業の最後に告知する） 【事前準備】ここまでの全ての授業内容を復習しておくこと（３時間以上） 【AL】AL＝アクティブラーニングの④に相当する課題（自分自身の個人的な考えを自ら深める）を兼ねて実施するまとめ。 13　定期試験（期末試験） 全部の授業内容を範囲とした試験を行う。
授業形態	講義 アクティブラーニング：①:0回,②:0回,③:0回,④:２回,⑤:0回,⑥:0回
達成目標	次の１～３について理解できることを目標とする。 １、幕末明治期の日本が置かれた国際環境と国家間関係を規定する力の原理を理解できる。 ２、国家存亡の淵に直面した近代日本人が、いかに危機意識を抱いていたか、またそれを払拭するためにいかに努力を惜しまなかったかを理解できる。 ３、近代以降の日本人にも「武士道精神」が受け継がれていたことを具体例から理解できる。
評価方法・フィードバック	達成目標１～３の全般について問う定期（期末）試験の結果で評価することを原則とする。ただし期末試験（100点満点）の結果が60点未満であった者については、授業中に行なうまとめの演習テスト又はレポートの結果（ＡＢＣＤで評価）等が特に優秀であった場合には、期末試験の得点に加算（Ａは20点、Ｂは10点を加算）し、その値で評価する。この加算によって60点を上回る場合は60点を上限として最終的な得点とする。 授業中に実施した演習テスト又はレポートに関するフィードバックについては、実施（又は提出締切）の翌週の授業で模範解答（小論文問題やレポートの場合は期待される内容の要旨）を示し、自己採点できるようにする。
評価基準	秀：（目標1～3について完全に理解）100～90点、優：（目標1～3についてほぼ理解）89～80点、良：（目標３つのうち2項目を完全に理解）79～70点、可：（目標３つのうち2項目をほぼ理解）69～60点、不可：59点以下
教科書・参考書	教科書：講義中、適宜指示する 参考書：講義中、適宜指示する 推薦図書：中村勝範『正論自由・第5巻』（慶應義塾大学出版会）
履修条件	できれば事前にＩ類「政治学」（1年後期科目）を履修していることが望ましい。
履修上の注意	・私語、飲食等厳禁 ・情報学部の学生で将来、小栗担当の「情報デザイン実践演習２」（3年後期）＆「卒業研究」（4年）に進むことを希望する者は、３年前期終了までに本科目、及び「政治学」（Ｉ類）、「マスコミ論」（情報デザイン学科・Ⅲ類）に合格していることが強く期待されているので承知しておくこと。
準備学習と課題の内容	各回の授業計画中に記してある通り、「準備学習」（1.5時間）として、毎回、前回の授業内容を復習し、完全に理解した上で授業に臨むこと。同様に、授業後の「課題」（1.5時間）として、自分のノートにミスや遺漏が無いかをチェックし、各自で補強しておくこと。その際、必要なら、いつでも小栗に質問に来ること。
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解:30%,思考・判断:30%,関心･意欲:25%,態度:10%,技能・表現:5%
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	